

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- 1年①基本的な学習態度の定着 ②読書習慣の定着 ③言語・表現活動の充実 ④書く作業の増加
 2年①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③言語・表現活動の充実
 3年①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③言語活動の充実

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>小学校までに身に付けてきた学力の分析が主となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観点別ですと「話す・聞く能力」と「書く能力」については、区の平均正答率を上回っていますが、「言語についての知識・理解・技能」がやや下回っています。 基礎・活用ともに区平均を上回っています。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部います。</p> <p>②文章を丁寧に読み進める姿勢の弱い生徒がいます。特に論理的文章の読解に抵抗感を示す生徒が多くいます。</p> <p>③決められた量の文章を書けない、書くことに抵抗のある生徒がいます。</p> <p>④語彙能力や漢字の書きに関して不十分な生徒が多いです。</p>	<p>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</p> <p>②読書の機会を設け、論理的な文章の構成を示し、各構成をまとめることを通して読解力をつけていきます。</p> <p>③文章の型の理解、テーマに応じて型を選択して文章を書くことで、「書く」ことに取り組みやすい工夫をします。</p> <p>④毎週漢字テストを行い、家庭学習の習慣を身につけ漢字を書く力をつけていきます。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> 正答率において基礎は区平均を上回っていますが、活用は区平均と同程度です。 観点別にみると、「書く能力」と「言語についての知識・理解・技能」は区平均を大幅に上回っています。 「話す・聞く力」については、区平均よりも大幅に下回っています。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が見られます。</p> <p>②文法理解のための反復練習や、毎週の漢字テスト等、努力と忍耐、集中力が求められる学習に対して、抵抗感を示す生徒がいます。</p> <p>③自分で筋道をたてて相手を納得させる発表ができない生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度の定着を図り、学習意欲を育てます。（ノート作成、ワークシートの記入の工夫）</p> <p>②漢字、文法等小テストの実施機会を増やし、家庭学習を定着させていきます。</p> <p>③発表やプレゼンテーションのお手本を紹介しながら、相手を納得させるような発表やプレゼンテーション行う機会を増やしていきます。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> 観点別では「言語についての知識・理解・技能」が区の平均を上回っていますが、「国語に関する関心・意欲・態度」、「書く能力」、「読む能力」は区の平均を下回っています。 「話す・聞く能力」は平均を上回っていますが、「話すこと・聞くこと」に関する理解力が低くなっています。 	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部見られます。</p> <p>②口頭で伝えたことや話し合いで聞き取ることができない生徒がいます。また、話す際に相手が理解しやすいように「内容を整理」「話の順序の整列」をすることを苦手とする生徒がいます。</p> <p>③漢字の書きに課題がある生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</p> <p>②スピーチ、ディベート、集団討論等を実施して話を聞く姿勢や内容を聞き取る力をつけていきます。ナンバリングやラベリングなどの技術を通して、「伝える」ことを意識化するように指導をします。</p> <p>③学習コンテスト、毎週の漢字テストを行い、漢字の読み、書きの力をつけていきます。</p>

(2) 社会科

社会科の重点 1年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③活用力の向上 2年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③応用力の向上 3年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の充実 ③活用力の向上
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校までに身に付けてきた学力の分析が主となります。 ・観点別の正答率は、すべての観点で区の目標値を上回っていますが、活用力は目標値を下回っています。 ・領域別正答率では、「我が国の農業や水産業」で区の目標値を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的に発言するなど学習意欲は高いですが、発言内容が断片的であったり、一面的であったりします。 ②社会的事象について多面的・多角的に捉え、論理的にまとめ表現する力が不足しています。 ③結果として、社会的な思考・判断・表現力がやや不足しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学習についての改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現を伴う活動を通じて知識を身に付けさせるとともに、身に付けた知識を整理するための小テストや復習用の課題を提示します。 ・反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。 ②思考・判断・表現の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・資料を活用したり、課題解決型の学習など取り入れたりしながら、より深く、幅広い思考を導き出すようにします。 ・主体的・対話的なより深い学びを通して、習得した知識の質を高めめます。 ・定期考査において資料活用力や思考力・判断力・表現力を問う問題を計画的に出題します。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別の正答率は、すべての観点で区の目標値を上回っており、活用力は目標値を大きく上回っています。 ・領域別では、世界の諸地域区平均値を下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的に発言するなど学習意欲は高いですが、発言内容が断片的であったり、一面的であったりします。 ②多面的・多角的に捉えさせた社会的事象が、系統的に整理されていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現を伴う活動を通じて知識を身に付けさせるとともに、身に付けた知識を整理するための小テストや復習用の課題を提示します。 ・反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。 ②思考・判断の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で発問などの内容を工夫し、資料を活用したり、課題解決型の学習活動の機会を取り入れたりします。 ・自分の考えをまとめたり、発表したりする学習課題を設定します。 ・定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率全体は区の目標値を上回っていますが、知識・理解では目標値を下回っています。 ・基礎力は目標値を下回り、活用力は上回っています。 ・領域別正答率では、「日本の諸地域」の問題が区平均値を大きく下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力が不足する生徒にとっては思考を促す活動、資料を読み解く活動などが難しく、学習意欲の低下につながっていると思われます。 ②多面的・多角的に捉えさせた社会的事象が、系統的に整理されていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着に向けた改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習したこと（考えたこと・調べたこと、知識として身に付けるべきこと）を振り返り、簡単なワークシートにまとめさせます。 ②思考・判断の能力育成のための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で発問などの内容を工夫し、資料を活用したり、課題解決型の学習活動の機会を取り入れたりします。 ・自分の考えをまとめたり、発表したりする学習課題を設定します。 ・定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。

(3) 数学科

数学科の重点

1～3年とも

①学習意欲の向上

②基礎学力の定着と向上

③活用力の定着と向上

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容は全ての観点や領域で目標値を上回っています。 ・強みは技能です。また、分野としては測量・図形・数量関係と幅広く既習の事項が身に付いていることです。学習アンケートでも意欲的な回答が多いです。 ・課題は数と計算の領域がやや弱いこと。これは、思考力は身に付いても、計算力不足によるものと思われます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①苦手意識の克服 整数なら計算できるが、小数や分数の除法の計算に苦手意識を持ち、平面図形など基礎的な数学の知識・技能が身に付いていない生徒が一部います。 ②計算力の向上 小学校で培った力をさらに伸ばすために、図形や数量関係を深めるための計算力を養う必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①特に習熟度別指導の基礎クラスでは、基本問題を、段階を踏んで解くことを重視し、苦手意識のある生徒でも「わかる・できる」気持ちを伸ばしていきます。 ②繰り返しの学習を実施することにより復習の機会を設けます。また、小テスト等で決められた時間内に計算を正確に行う習慣を身に付けさせ、計算力の向上に努めます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての観点や領域で目標値を上回りました。 ・強みは活用分野（表現力）がよくできることです。学習アンケートでも意欲的な回答が多いです。 ・課題は数学的な技能が弱いことです。意欲に比して計算力不足により正答できていないと考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎・基本の定着 小学校や1年の学習内容の基礎・基本を定着させる必要があります。 ②技能の向上 分数や正負の数の四則計算、かっこを含む1次方程式が苦手です。 ③活用力の向上 数学の問題を解くときいろいろな方法で考える生徒が多いです。（本校71.5%，区61.5%） 	<ul style="list-style-type: none"> ①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。補習で既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。 ②確認テストや進級テストを実施します。繰り返しできるまで指導し、技能の向上に努めます。 ③言語活動を重視し、常になぜかを問い、発表させる授業を展開します。答だけでなく途中の計算や考え方をかくことを大切にします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての観点を区及び全国の平均を下回っています。 ・強みは数と式の領域、計算の復習、式の計算と図形の性質で、目標値を上回っています。課題は証明で、大きく目標値を下回っています。 ・ただし、証明するのは面白いと思う生徒が本校は58.2%と多くいます。（区全体49.6%） 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎・基本の定着 直前に学習した3年の内容はよくできますが、過去の学習内容の定着が課題です。 ②活用力の向上 日常生活の中で、これは数学の授業で学習したことだなど思うことがある生徒は76.7%です。（区全体67.7%）やる気を結果につなげることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ①復習の機会を設け繰り返しの学習を実施することにより、基礎学力の定着を図ります。夏休みに補習授業を行い、1・2年の復習をします。 ②どうしてそうなるのか発言や意見交換を通して自分の考えを深めていく雰囲気と、答だけでなく途中の計算や考え方をかくことを大切にします。ワークシートを利用して個に応じた進め方できるように工夫し、意欲と自信をもたせるような授業を行います。

(4) 理科

理科の重点

- 1年 自然の事物現象を見て、問題を発見する力を身に付ける。
- 2年 発見した問題に対して課題を設定し、実験観察の計画を立てる。
- 3年 自然の事物現象を調べ、探求のプロセスを振り返り改善する。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
	分析内容	指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での学習内容は、目標値は上回っていますが区の平均は下回っています。 ・基礎的な知識を活用していく力が若干不足しています。 ・問題に対し、予想をたてたり、予想理由を考えたりすることを苦手とする生徒が多くいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校からの学びの連続性をもっとよく考慮し、生徒の興味や関心を高める授業が必要です。 ②学習内容を論理的に考えることが苦手な生徒が多くいます。 ③実験・観察の方法が身につけていない傾向があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業の導入部で、小学校での学習内容を思い出させるような導入を行います。小学校の学習内容を考慮した年間指導計画を作成します。 ②、小テストなどを利用して基礎学力の定着を図ります。 ③実験観察を通して、小学校での既習事項の復習も行っています。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率では区の平均および目標値を若干下回っています。 ・「活用」の部分については正答率が高い傾向にあります。 ・領域では「火山」で特に大きく目標値を下回っています。 ・観点では「観察・実験の技能」が特に低い正答率となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1, 2年の学習内容の基礎・基本を定着させる必要があります。 ②身近な自然の事物・現象に対して、興味や関心を持たせる必要があります。 ③実験技能や結果をまとめ論理的に思考することが苦手な傾向が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①質問教室を開く等して、理解できていない部分をなくしていきます。 ②既習事項復習のための小テストを随時行い、内容の定着を確実にします。 ③実験や観察を適切に実施し、レポートを通して、結果を表やグラフにまとめ、考察する活動を多く行います。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての項目で目標値を5%以上上回っています。 ・ほぼ全ての項目で、昨年度の達成率を大きく上回っています。 ・地球の領域だけ、昨年度の達成率より下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①目標値や区の平均値は上回っていますが、基礎基本が定着していない生徒も存在しています。その結果が、標準偏差が区平均よりも大きな値として表れています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全ての生徒が基本的な内容を確実に理解できるような授業展開の工夫を行っていきます。 ②学習の遅れがちな生徒への補習や質問教室を行っていきます。 ③都立高校受検に向けて、応用力をつけるための問題演習などを、授業内や補習で行っていきます。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- 1年 音楽を楽しみ、愛好する心情を育てる。
- 2年 表現することのおもしろさを知り、積極的に表現活動を行う。
- 3年 鑑賞と表現のつながりに気づき、創造的な表現を工夫できるようにする。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに意欲的な生徒が多いです。力が有り余ってしまい、力任せに歌う時もあるので、目標となる響きや音が聴き取れるように、耳を成長させていきたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて音を聴き合う環境に慣れさせる必要があります。 ・音楽における基礎・基本を定着させ、表現につなげていくことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの領域に偏らず、歌唱・鑑賞・器楽・創作の各領域の系統性をもたせた授業を展開します。 ・繰り返し学習を行い、学習内容を表現活動へと生かしていきます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことに意欲的な生徒が増えてきましたが、2学級になり人数が増え、気を抜きがちな環境ともいえます。個々の主体性を更に伸ばしていくために、基礎基本を更に定着させ、学び合う活動に慣れることが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を活用する能力に個人差があります。 ・話し合い、学び合いの場面を増やし、個々の主体性を引き出す手立てが必要です。表現活動を牽引する生徒を育てる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本については何度も繰り返すことによって、学習内容の定着を図ります。 ・グループ学習を取り入れ、自分の考えを、根拠をもって発表し合う機会を作り、学習と表現の内容を深めていく工夫を取り入れます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体をリードする生徒や活発で前向きに音楽を表現する生徒が増えました。一方で受け身がちな生徒もまだまだいるので、個々の主体性を更に伸ばしていくために、協働的に高め合う活動を積極的に取り入れていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を活用する能力に個人差があります。 ・受け身がちな生徒が、主体的に取り組めるような手立てが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動の中で、他者と調和・共感し合いながら表現を深める活動に重きを置きます。 ・自主活動を意図的に計画し、支援していきます。 ・自己評価や他者評価など、生徒自身が授業の中で互いに評価し合える活動を多く取り入れます。

(6) 美術科

美術科の重点 <全学年>

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度の向上を図る。
- (2) 多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫して美しく表現する能力を育成する。
- (3) 自然や美術作品などについて、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力の充実を図る。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に多くの生徒は授業に取り組む姿勢は熱心で意欲的です。 ・作品の制作進度の差が大きく、遅い生徒の指導と配慮が必要です。 ・生徒によって予備知識の差で鑑賞教育に理解差が出ています。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業時間内に作業に計画的に取り組めず、作品が仕上がらない生徒がいます。 ②制作手順や技法について十分に理解できない生徒がいます。 ③生徒の経験値によって情報の共有し合えず、満足な授業ができないことがあります。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の実態や特長を把握し、適切な課題の設定と教材の開発（興味の広がる）に努めます。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。 ③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作ります。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・例年に比べ生徒の数に変化が生まれ、集中できる、できない生徒で分かれています。 ・1時間の授業に全員が集中して取り組める授業づくりが必要です。 ・生徒の意識を高めるために、考えさせたり手を動かしたりする時間を授業内に設定する必要があります。 	<ol style="list-style-type: none"> ①集中が続かない生徒が作業が遅れ、生徒の能力差が生まれます。 ②作品の制作進度に大きな差が生じています。 ③考えながら、先を見通して制作する姿勢を身に付けさせる必要があります。 	<ol style="list-style-type: none"> ①関心を持たせるための題材、授業展開の他、メリハリのある指導を大切にします。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。 ③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作ります。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に授業に取り組む姿勢、意識が高く、真面目です。 ・集中力が続かず、作品が完成できない生徒が数人います。 ・作業は熱心に行いますが、創意工夫、考えることに苦手意識のある生徒がいます。 	<ol style="list-style-type: none"> ①意欲的でも、勉学への関心を持つ持たないで差が生まれています。 ②作品制作は取り組みますが、制作過程の大切さを理解できていない生徒がいます。 ③自分で考えてものを作ることが苦手で、前例がないと戸惑ってしまいう生徒がいます。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の実態や特長を把握し適切な課題の設定と教材の開発に努めます。 ②アイデアスケッチなど先を見通して制作させる時間を作ります。 ③授業導入時に5分間鑑賞を行い、日常生活の中にある美術の果たす役割にも目を向け、卒業後も美術に対する興味・関心をもち続ける意識（感性）を育てます。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点 <全学年>

- (1) 運動と健康・安全の関係を意識し、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させる。
- (2) 基礎的な技能や知識を身につけ、それを活用する力（思考力・判断力・表現力等）を育む。
- (3) 運動の楽しさや喜びを味わわせ、生涯スポーツに向けた実践力を育てる。
- (4) 意欲的に学びに向かう力、仲間と関わり合いながら学習する力を育む。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力は男子が、投力・持久力・スピードの種目において平均を下回るが、それ以外は平均的です。女子は、ボール投げ以外の種目で、平均を上回っています。 ・学習や運動への意欲、関心は高いですが、思考力・判断力について不十分な面もあります。 ・係やリーダー中心に学習を進めることができます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学びに向かう力を育てます。 ③ 自己の課題に取り組む姿勢を育てます。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 学習カードの活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ③ グループ学習のモデルを示し、チームやペアでの教え合いや話し合いを通して、係やリーダーの育成に力を入れます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力は男子が、ボール投げ以外の種目で、平均を上回っています。女子は柔軟性・瞬発力が平均を上回っているが、投力が平均を下回っています。 ・概ね、運動への関心・意欲は高いですが、女子は一部、運動への取組が不十分な面が見られます。 ・思考力・判断力・知識について不十分な面もあります。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学習に取り組む、自己の課題を我慢強く解決する姿勢を育てる必要があります。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 係やリーダーを中心とした自主的な授業を進めていくことができますようにします。 ③ 学習カードや ICT の活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ④ グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力は、男子がほとんどの種目で平均値かやや下回っています。特に、持久力と投力に課題があります。女子は持久力、投力で平均を下回りますが、それ以外はほぼ平均値です。 ・全体的に関心・意欲・態度は概ね満足できます。 ・学習意欲は高いですが、思考力・判断力・知識について不十分な面もあります。 ・係やリーダー中心に学習を進めることができます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎的な身体能力の向上を図ります。 ② 主体的に学びに向かう力と協力して学習を進める人間性を育てます ③ 自己の課題を的確に理解し、課題解決に意欲的に取り組む姿勢を育てます。 ④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。 ② 係やリーダーを中心とした自主的な授業を進め、授業全体で協力し、互いに高め合う雰囲気を作っていきます。 ③ 学習カードや ICT の活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。 ④ グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点 <全学年>

- (1) 課題解決に重点を置いた学習指導を展開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指します。
- (2) 実践的・体験的な学習活動と、適切な評価をおこなうことで学習意欲を高めるようにします。
- (3) 生活と知識と技能を関連させた題材により、考えて発表する言語活動を充実させます。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・実習では製作進度に個人差が大きく配慮が必要です。 ・衣食住への興味はありますが、基本的な概念の理解に繋がっていない生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記入や製作で個人差が大きいです。 ・作品製作の体験が少ないので、作業の基礎・基本を丁寧に指導する必要があります ・表現力・発表力の向上が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や製作進度が速い生徒に先生役をお願いし、遅れている生徒の手助けを行います。 ・それぞれの生徒が家庭生活で役立つ収納作品の設計と製作を通じて、創造性を高めます。 ・家庭生活や衣生活での重要性について重点を置きます。生活を具体的に見直すワークシート等活用します。 ・衣服の単元では、素材や洗剤の性質などの実験を取り入れて、実際に目で見て体験できる活動を取り入れます。 ・毎時間、見通しを立てて製作できるようにします。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・実習を面倒と感じて意欲の低い生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記入や製作で個人差が大きいです。 ・表現力・発表力の向上が課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術と実生活との関連を考え、生活の中に役立つ技術について考えて発表する教材を取り入れて、言語活動を充実します。 ・個別指導で、必要な支援を行います。 ・生徒がつまづきやすいポイントを示しながら分かりやすく説明します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。 ・落ち着いて授業に取り組んでいます。 ・意欲的に製作に取り組むことができます。 ・作業の中で創意工夫が苦手な生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記入や製作で個人差が大きいです。 ・表現力・発表力の向上が課題です。 ・子どもの成長について考察する姿勢に個人差があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野はものつくりを多く取り入れ、実践活動を充実させます。 ・家庭分野に幼児とのふれあい体験を取り入れ、伝えたり実践したりしていく活動を充実させます。 ・幼児向けおもちゃの製作活動を通して、幼児の成長に関心をもてるようにしていきます。

(9) 英語科

英語科の重点

1年～3年とも

- ① 自立的な学習態度の定着
- ② 基礎学力の定着
- ③ 言語活動の充実

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子やアンケートから、小学校時の外国語活動により、英語学習に積極的に取り組む姿勢がわかります。 ・中学校英語に対する不安がある生徒が多く、特に「書くこと」に対する不安が強いようです。 ・書く力が弱いです。アルファベットの特に小文字を正確に書けない生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習態度が定着していない生徒も一部います。 ・大文字と小文字の区別ができない生徒がいます。文の書き方のルールを理解していない生徒がいます。 ・言語活動では自信を持ってコミュニケーションをとることが苦手な生徒もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習態度を身につけさせるため、スモールステップで達成感を得させられる授業展開を行います。 ・教科書以外でも様々な文や単語に触れる機会を増やすことで、正しい書き方の定着を促します。 ・発表後のフィードバックを行い、生徒に自信を持たせることで発表への意欲を上げていきます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての観点や領域で目標値を上回りました。 ・まとまった量の作文を書くことについては比較的よい結果が出ていますが、意欲はあっても正確さに欠けるところがあります。 ・言語や文化の知識理解については課題が有ります。区平均、全国平均ともに下回っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な知識習得を活用するための反復練習が不足しています。 ② 表現に必要な語彙力が乏しい傾向にあります。 ③ 書くことには抵抗がありませんが、正確さに欠けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ① プリントは、授業で何度も使用するよう構成し、テストでも必ず出題するなど、反復学習を行います。 ② 短めの長文問題を毎時間解くことにより、語彙力を高め、文法事項も復習しながら、基礎力の定着を図ります。 ③ 「書く」力や学習内容の定着、活用力をつけるために、Sectionごとに教科書本文の要約・再構成と発表やスピーチなどを行います。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての観点において全国平均を上回っていますが区の平均には届かないものが一部ありました。 ・昨年よりも全ての観点で学内のデータが下回り、特に読むことに関しては10ポイント減でした。 ・観点別では、「外国語理解の能力」や「関心意欲」が高いのに、長文を正確に読み取る力がやや劣っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①総合的には基礎活用力があるにも関わらず、正確さに欠けている部分があります。 ②コミュニケーションへの意欲が高いので、さらに向上心を持たせる必要があります。 ③自分でよく考え推測して読むような学習活動に力を入れていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ①重要表現をもとに正確に英文を書く表現力と注意力を身に付けさせます。 ②正確な読解力を身につける土台として語彙や文法を大切にしながらより多くの英文を自力で読み進めさせます。 ③英問英答で未回答や不正確が目立っているため、意欲を持たせつつ、正しい答え方について口頭から筆記まで効果的に指導します。